

べつかい 議会だより

第 78 号
2016
8.1

搾乳前に前絞り※を行う研修牧場の研修生
(関連記事12頁)

特集

第2回定例会開催される 2

一般質問を行わなかった理由
平成28年度補正予算の概要

委員会のうごき 7

シリーズ まちの宝物 別海町酪農研修牧場 12

※搾乳器を付ける前に、細菌の多い乳を排除するものです。また、マッサージにもなり乳の出が良くなる効果もあります。



北海道別海町議会

第2回定例会開催される(6月13~14日)

一般会計予算 1710万円を承認

第2回定例会では、補正予算、工事請負契約、財産の取得などの審議を行いました。

一般質問を行わなかった理由

今回の定例会では、町長不在のため一般質問を行いませんでした。

町民からは「職務代理者がいるのに行わない理由は」との質問もいただきました。

町長が不在でも既存の事業成果や内容を限定した一般質問は可能であるとも考えられます。

しかし、一般質問は首長の所信を質することを基本としており、将来の取り組みについて判断をもとめられる答弁については、首長が不在の中ではできないと判断しました。

今回は、これらのことや他の自治体でも同様の対応であったことを十分考慮し、議員全員で協議の結果、一般質問を取りやめました。

平成28年度 補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	1710万円	193億2229万円
国民保健	3400万円	30億8600万円

一般会計の主な補正（歳出）

私立認定こども園施設整備事業	9315万円新規
風蓮湖物揚場整備事業（関連記事9頁）	1541万円新規
新デイサービスセンター整備事業	346万円新規
臨時福祉給付事業	671万円新規
障害・遺族年金給付者向け臨時福祉給付事業	900万円新規
旧ごみ焼却処理施設煙突解体撤去事業	6000万円新規
災害時避難施設建設事業	138万円新規
小学校設備整備事業	204万円増額
西公民館補修事業	635万円増額
町づくり計画策定事業	19万円増額
社会保障・税番号制度システム整備事業	1204万円増額
防災管理システム整備事業	411万円増額



旧ごみ焼却処理施設煙突解体

金額 6000万円

上風連地区にある旧ごみ焼却の煙突解体



小学校設備整備

金額 204万円

昨年の台風の影響で曲がったフェンスの修理など



臨時福祉給付事業

金額 671万円

福祉課に設置された給付窓口



私立認定こども園施設整備

金額 9315万円

愛光幼稚園の施設整備



西公民館補修

金額 635万円

昭和53年に建設され老朽化した箇所改修



新デイサービスセンター整備

金額 346万円

送迎に使用されるバスの購入補助

条例を一部
改正しました

◆別海町税条例等の一部を改正する条例

地方税法の改正にあわせ、法人税率を12・1%から8・4%に引き下げるほか、軽自動車税環境性能割を創設し、自動車取得税を廃止するなど、一部を改正しました。

◆別海町国民健康保険条例の一部を改正する条例

地方税法施行令の改正にあわせ、課税限度額を現行の52万円から54万円に引き上げるなど、一部を改正しました。

◆別海町立保育園運営委員会条例の一部を改正する条例

別海町立保育園が認定こども園になったため文言を改正しました。

◆別海町社会体育施設設置条例の一部を改正する条例

本別海水泳プールが廃止となったため削除するものです。

◆北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について

◆北海道市町村総合事務組合規約の変更について

◆北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について

以上、3件の規約の変更は、構成組合員の変更があったものです。

工事請負契約を
締結しました

◆本別海へき地保育園改築建築主体工事

契約金額6145万円
期間は平成28年12月20日まで



建設が始まった本別海へき地保育園

◆上西春別小学校校舎・講堂改修建築主体工事

契約金額8097万円
期間は平成28年12月20日まで

◆西春別駅前団地公営住宅改修建築工事

契約金額4987万円
期間は平成28年12月20日まで

◆旧奥行白駅通所主屋保存修理工事

契約金額2億2896万円
期間は平成30年9月30日まで

工事契約の一部
を変更しました

◆根室中部3号主要幹線改良舗装工事請負契約

契約金額1億5444万円を1億5959万円

に増額するものです。

別海町教育委員会
委員を選任しました

別海町教育委員会委員に粥川一芳氏を選任することに同意しました。

任期は平成32年10月11日です。



粥川一芳さん

財産を取得
しました

◆消防ポンプ自動車1台
取得価格3865万円

◆高規格救急自動車1台
取得価格3682万円

◆車両（生活バス）1台
取得価格2516万円

◆除雪グレーダー1台

取得価格3423万円

◆車両（移動図書館車両）
取得価格1906万円

意見書が提出
されました

◆指定団体制度の機能を維持するよう求める意見書（全会一致で可決）

提出者 西原 浩 議員

指定団体制度による生乳の一元集荷・多元販売は、乳業メーカーとの価格交渉が有利となり乳価が安定する。

さらに、一元的な輸送体制での経費の削減になり、合理的な制度である。

地方需要者・消費者に対し、牛乳・乳製品を供給していくために、全道での広域な一体的需要調整が必要不可欠である。よって、指定団体制度の機能を維持することを求める。

◆消費増税中止を求め
る意見書
(賛成2名 反対13名)

提出者 瀧川 榮子 議員

財政再建は国民の負担増で解決してはならない。国民の暮らし・福祉の向上を最優先し格差是正が求められている今、消費税を8%から10%へ増やすことは地域経済の活性化をより困難なものとする。

さらに、少子化が進む中で子育て環境も一層悪化させるため、延期ではなく増税そのものを中止するよう強く求める。

反対 戸田憲悦議員

少子高齢化が急速に進み、福祉に係る経費は急増している。不足分は国債を発行し確保している状況で、日本経済の破綻を招きかねない状況となっている。

消費税増税は国会で承

認されており、国の財政再建のためにも引き上げはやむを得ないと受けとめている。

軽減税率導入で低所得者にも幅広く配慮しており、一定負担を国民にお願いすることは地方分権に伴う財源確保を図る政策としてもやむを得ないものであると考える。

賛成 中村忠士議員

消費税を8%に引き上げた「アベノミクス」の失敗で格差が拡大し、貧困が広がった。消費税は、負担能力に応じて税を納めるという税の公平負担の原則から逸脱した税制で、増税するたびに、医療も介護も年金も制度の縮小が続いている。

消費税は社会保障の充実とは関係ないところで使われており、税金の集め方を改め、無駄な税金を使わないことで、消費

税増税も社会保障削減も必要がないと考え賛成する。

◆TPP協定に関する
意見書
(賛成12名 反対3名)

提出者 西原 浩 議員

TPP協定内容について丁寧な情報提供を行うほか、地方の基幹産業への影響が及ばないよう農林水産業の体質強化を念頭に、中長期的な対策を講じる。

さらに、消費者の不安を解消するため、食の安全・安心を確保する対策を講じることを求める。

反対 中村忠士議員

意見書の内容は賛成できる部分もあるが、国会批准ありきとなっている。そのような意見書に賛成することはできない。私自身、しいては国民を裏切ることとなるため

反対する。

賛成 松壽孝雄議員

当町の酪農家が将来にわたって営農に取り組めるよう、農業対策の確立と地域経済を守る観点から、情報提供や万全な対策および消費者の不安を解消する措置を講じることを要望している。

懸念事項の払拭を行い、国益に十分配慮し、慎重に進めることに期待する見地から賛成する。

◆TPP協定の国会批准をしないことを求める意見書
(賛成3名 反対12名)

提出者 中村 忠士 議員

政府は大筋合意後もその内容を示さないままTPP対策費を含む補正予算を成立させ、協定書および付属書の成否に必要な時間も与えず国会に批准を求めようとした。

当町議会は昨年12月「TPPに関する合意内容と影響について十分な情報公開と説明および懸念される影響への対応を求める意見書」を全会一致で可決し、関係大臣に送付したが要請主旨が顧みられない。

重要農産物5品目すべてで大幅な譲歩を行い、今後、全農産物の関税撤廃を迫られる恐れがある。医療をはじめ国民の健康や暮らしを守る規制・制度も同様で日本の農林水産業、国民の利益、国民主権を守るため、TPP協定の国会批准は絶対しないよう強く求める。

反対 佐藤初雄議員

TPPは世界のGDPの約4割の経済圏をカバーするもので、TPP関連政策大綱では海外展開に踏み切れなかった中小企業が、海外市场へ進出することへ全力で後押しす

ることが示されているなど、国が行う対策の有効性に期待して本案に反対する。

賛成 瀧川 榮子 議員

日本農業新聞は全国のJA組合長を対象にアンケートを実施した。国会決議が「守られていない」92%、「ぎりぎり守られた」2%という大筋合意直後の重要なアンケート結果が出た。

国会決議で「聖域なき関税撤廃が前提ではない」としながら、重要農産物5品目は大幅な譲歩がなされた。

対外的には譲歩し、自国では国会議員の情報提供要求に対して出されたのは、墨塗り文書であり、納得できるものではない。よって本意見書に賛成する。



第2回定例会（6月13日～14日）

討論が行われた議案の採決結果	小 原 哲 也	外 山 浩 司	大 内 省 吾	木 嶋 悦 寛	松 壽 孝 雄	森 本 一 夫	今 西 和 雄	西 原 浩	沓 澤 昌 廣	小 林 敏 之	瀧 川 榮 子	戸 田 憲 悦	中 村 忠 士	渡 邊 政 吉	佐 藤 初 雄	松 原 政 勝	採 決 結 果
消費税増税中止を求める意見書	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	※	否
TPP協定に関する意見書	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	※	可
TPP協定の国会批准をしないことを求める意見書	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	※	否

○原案賛成 ●原案反対 ※議長は可否同数の場合に決裁権があります

議案番号	件名
議案第50号	平成28年度別海町一般会計補正予算
議案第51号	平成28年度別海町国民健康保険特別会計補正予算
議案第52号	別海町町税条例等の一部を改正する条例の制定について
議案第53号	別海町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について
議案第54号	別海町立保育園運営委員会条例の一部を改正する条例の制定について
議案第55号	別海町社会体育施設設置条例の一部を改正する条例の制定について
議案第56号	北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について
議案第57号	北海道市町村総合事務組合規約の変更について
議案第58号	北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について
議案第59号 ～62号	工事請負契約の締結について
議案第63号	工事請負契約の一部変更について
議案第64号 ～68号	財産の取得について
議案第69号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の策定について
同意第2号	別海町教育委員会委員の任命について
報告第1号	平成27年度別海町一般会計繰越明許費繰越計算書について
報告第2号	平成27年度別海町一般会計事故繰越し繰越計算書について
発議第4号	指定団体制度の機能を維持するよう求める意見書

以上、全会一致で可決しました

議会活性化に向けモニター制度始まる

別海町議会モニター設置

1 目的は

地方分権の推進に伴い、議会に対する町民の関心と期待が高まる中、町民の信頼と期待に応えるという議会の役割はますます拡大しています。

議会モニターを設置することにより、別海町議会の運営に、町民からの要望、提言を広く取り入れます。

また、積極的に町民の知恵を借りることで、議会の運営を活性化させ、議会のチェック機能や政策形成能力の向上を図ることを目的とします。

2 モニターの資格はどんな人が持っている？

- ・18歳以上の町民で、公務員や議員、各種行政委員ではない人。
- ・議会の運営や仕組みに関心がある人。

・町政や地域の発展に関心がある人。
・などが資格となります。

3 募集方法は

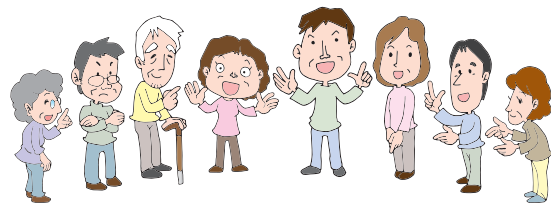
- ・公募2名、推薦6名。
- ・推薦は議長が適当と認めた団体などに対し適任者の推薦を依頼することができます。
- ・推薦依頼は均整を図るため、別海町を3地区に分割し、各地区から1名の推薦を受けます。
- ・農協や漁協、商工会からも各1名の推薦を受けることとします。

4 定員は

8名以内です。

5 役割は？

- ・議会や委員会（非公開）で行われるものは除くを傍聴し、意見や提言を行うこと。



- ・町議会議長が依頼した議会の運営に関する調査事項に回答すること。
- ・町議会議員と年に1回以上意見交換を行うこと。
- ・議会広報やホームページの提案を行うこと。
- ・その他議長が必要と認められたこと。

- ・などが挙げられます。

6 提出された提言に対する議会としての対応はどのようにしていくか

- ・議会モニターから提言などが出されたときは、

議長は必要に応じて、関係する会議にその提言を送付し、会議において検討を行います。

- ・検討結果は、原則として提言いただいた議会モニターに通知し、またホームページや議会だよりで公表していきます。

7 解任はどんな時

- ・議会モニター員から申し出があった時や議長が必要と認めるときなどです。

8 任期

- ・任期は1年として、再任の妨げはありません。

議会モニター員への委嘱状が手渡される

4月14日、議会モニター員に委嘱状が手渡され、モニターの役割や議会の内容が議会事務局から説明されました。

モニター員は要職にある方が多く、議会傍聴など代理の参加も認められています。

モニター員からは、「議会傍聴の良いきっかけになった」「まちづくり構想の成果を知りたい」など意見があげられました。6月定例会では、さっそく連日議会を傍聴される姿がありました。

議会モニター員名簿

氏名	公職他	備考
原井 松純	J A 道東あさひ代表理事組合長	団体モニター
中澤 賢一	野付漁業協同組合代表理事組合長	団体モニター
橋本 淳一	別海町商工会会長	団体モニター
山口 長伸	別海連合町内会会長	団体モニター
臼田 誠治	尾岱沼連合町内会会長	団体モニター
尾藤 是誉	西春別駅前連合町内会副会長	団体モニター
大畑紀美子	上春別在住（公募）	個人モニター

各常任委員会のうごき

第1回定例会から第2回定例会に行われた各常任委員会の活動について概要をお知らせします。

総務文教 常任委員会

委員長 松壽 孝雄

現地視察（5月16日）

野付半島災害時避難施設

防災交通課より、施設概要、管理方法、使用方法、備蓄品（毛布、水、クラッカー、発電機、ストーブなど）の状況について、説明を受けました。

施設の高さは6・6mで、避難スペースが約100㎡あり、164人が避難することができ、災害時に十分対応可能であることを確認しました。

委員からは、トイレの換気への配慮、多目的室の棚や敷物などが必要との指摘があり、今後、整備するとしています。

中春別中学校体育館
工事概要について学務課より説明を受けました。

非常に明るい内部は、道産のカラマツ材がふんだんに使用され、天井も高く機能的な体育館では生徒たちが元気に運動をしています。今後モスポーツの振興が期待されます。

また、本年度は旧体育館の解体を含めた外構などが整備される予定です。

郷土資料館豊原分館

根釧パイロットファーム事業は昭和31年から39年まで行われ、当時は豊原地区187戸、美原地区174戸の計361戸が入植しました。

これまでの苦難の歴史を後世に残そうと、地域住民から提供を受けた家庭用品や農作業機械など多くの資料を収集展示しています。

現在は郷土資料館の収



根釧パイロットファームの歴史を語るパネル（郷土資料館豊原分館）

蔵品1024点と根釧パイロットファーム事業関係の236点が展示されています。

生き抜くカアツプロジェクト

平成27年度実施状況について報告がありました。全国学力テストの結果において家庭学習の定着による学力向上など、各学校において実効性のある取り組みが効果を上げています。

秋田県横手市で行われ

た視察研修について、委員からは昨年度まで3カ所だった視察地が1カ所になった理由について質問があり、特に横手市が優れていたからで、研修をしっかりと授業に生かしたいとのことでした。今後継続して調査を行います。

別海高校 普通科1学級が復活

平成26年度から普通科1学級減となっていました。平成29年度より1学級復活することとなりました。

今後、中学校卒業生の増加に伴い、地元校への進学に期待をしています。

今後、支援拡充に向けた調査を行います。

恒久保存に向け解体復元される旧駅逦所

旧奥行白駅逦所保存 修理工事始まる

平成23年9月に国の史跡に指定され、その後、平成25年5月に保存管理計画策定委員会を発足し、平成26年に保存計画決定というこれまでの経緯の説明を受けました。

そして今年度、事業費2億2896万円で改修工事が始まります。

平成30年までの3年間で行われ、一般公開は平成31年度からの予定です。



恒久保存に向け解体復元される旧駅逦所

**福祉医療
常任委員会**

委員長 戸田 憲悦

介護施設の状況

西春別ケアセンターか
しわ野（高齢者生活ハウ
ス、西春別デイサービス
センター指定管理者道東
あさひ農業協同組合）を
訪問し、運営の状況につ
いて調査しました。

運営の経緯については、
平成10年頃、当時の西春
別農業協同組合長は、別
海町から施設の提供・支
援は行うので、地域に信
頼のあるJAに地区福祉
の拠点として福祉事業を
担ってほしいと強く要請
を受け、役員とともに介
護施設の視察研修を重ね
られました。

今後、急速に進むこと
が予想された高齢化に向
け、また、何よりも組合
員家族の介護負担軽減を
図り、併せてJAが福祉

事業により社会貢献を
実現できるといことで、
事業に取り組むことの理
解を役員全員から得るこ
とができたそうです。

平成12年4月農協総会
の承認を受け、介護保険
制度施行と同時に、介護
事業所（現在は道東あさ
ひ介護事業所）を設立し、
施設運営に至ったとの説
明を受けました。

西春別地区は、168
3世帯、人口4057人、
うち65歳以上998人、
高齢化率24・6%で町全
体の高齢化率と比較して
1・3ポイント高いとの
説明も受けました。

現在の入居者は11名、
個室が9室、2人部屋が
1室で、施設的环境も良
く、施設内のデイサービ
スセンターについても大
変心配りが行き届いてい
ました。

また、その他の介護事
業として訪問介護、配食
サービス、外出支援、サ



西春別ケアセンターかしわ野の所長から説明を受ける

ロン遊楽運営など、介護
を担う事業所として地域
の信頼を得ています。

職員数はセンター長以
下31名ですが、介護職員
の確保については独自に
講師を要請し資格取得講
習や、介護ヘルパー要請
講座受講など努力をされ
ています。

西春別地区では新規に
グループホームが計画さ
れており、介護職員確保
に対しては懸念があり、

町として人材
確保の対策が
必要ではとの
意見が出され
ました。

ケアセン
ター事業収入
については、
指定管理事業
費を充当しバ
ランスが取れ
ています。

また、JA
事業として費
用負担し地域
経済貢献を目的とした事
業を行っています。

要保護児童対策

児童虐待防止法改正に
合わせ、児童福祉法も改
正されました。

それにより、地方公共
団体の責務が明確になり、

「要保護児童対策地域協
議会」設置義務が強化さ
れました。
当町においても「別海

町要保護児童対策地域協
議会」が設置されており、
児童虐待などの未然防止
早期発見、解決のため関
係機関と連携し、養育支
援の強化を図ることが説
明されました。

障害者差別解消法

この法は、障がいを理
由とする差別の解消推進
のため、国の行政機関や
地方公共団体などおよび
民間事業者による対応措
置や、障害者差別解消支
援地域協議会など組織連
携による支援措置につい
て、より具体的に整備さ
れているものです。

当町においては「職員
対応要領」を作成してい
ることや、職員研修や法
の啓発などを予定してい
ることが説明されました。
調査事項の要保護児童
対策と障害者差別解消法
については、今後も継続
調査を行います。

**産業建設
常任委員会**
委員長 杏澤 昌廣

新規就農者の確保・育成について

ここ数年は毎年約20戸の離農に対し新規就農が3戸程度と、酪農家の減少が続いている深刻な状況です。

当町の基幹産業である酪農が将来にわたり安定して発展・継続するためには、新規就農者の確保

と育成が最重要項目のひとつとなっています。

当町では、平成9年から別海町酪農研修牧場を中心とした、新規就農者の確保と育成事業が行われていきます。

昨年度からは農協と行政が連携し新規就農者を育む、別海地域担い手育成総合支援協議会も設置されました。

今後は、東京や大阪で開催される新・農業人フェアなど各種イベントへの

間の力を取り入れた担い手育成を開始するなど、意欲的な事業も立ち上げられています。

飼料の高騰やTTP問題など、酪農を取り巻く環境は厳しさを増しており、決して安穩としていられない状況ではありませ

ん。
当委員会としても、全国に先駆けて制定された別海町畜産環境条例や、全国一を誇る生乳生産量

など、当町ならではの強みを生かした酪農産業の発展を目指し議論を深めてまいります。

風蓮湖物揚場の整備について

漁獲物の荷揚げ用として地域漁業者が共同利用するため、平成4年、風蓮湖に係留施設が設置されました。

道立自然公園内であるため、杭などが使用できず浮桟橋となりましたが、

風雨や冬期の湖面凍結により毎年のように修繕が必要となり、費用

面で大きな負担となっていました。

また、別海の厳しい自然環境の中で修復が繰り返された浮桟橋は、桟橋としての機能をほぼ失

いつつありました。

繁忙期には50隻あまりの漁船が利用するという

ことで、十分に桟橋としての機能を発揮していない状況での荷揚げ作業は、手間がかかるだけでなく安全面でも大きな問題を抱えている状態となっています。

町としても地元と協力しながら自然公園を管理する道に対し、堅牢な支柱を用いた桟橋を設置す



桟橋としての機能を失い沈んでいる風蓮湖の浮桟橋

る許可を求め続けていきましたが、やっと長年の活動が実を結び、桟橋の建設が可能となりました。

今年度は実施設計を行い、平成29年度から2カ年をかけて桟橋の建設が行われる予定です。

委員会では実施設計の内容も含め、環境に対する影響が最小限で、より利用しやすい設備になるよう、早い段階から事務調査を進めていきます。



今年4月から別海町研修牧場に入った細川優作・美幸夫妻

参加、専門学校や農業高校など教育機関への働きかけに加え、酪農の持つ魅力を伝えるためのPR活動も積極的に行われる予定です。

また、中春別農協でも独自の研修牧場を設置し、民

北方四島交流訪問事業に 2議員が参加

色丹島を訪問して
瀧川 榮子

平成28年度第1回北方四島交流訪問事業は、5月20日～23日の日程で行われ参加しました。

64名の訪問先は色丹島です。訪問者への歓迎の意を含め、セレモニーの前に焼きたてのパンがふる



歓迎のパンを持つ女性

まわれました。

島内を走る車の多くは日本製で大切に使われています。「長く使いたい物は日本製。1年持てばいいものは別の国でもOK」と島民は日本製品の質の高さを語ってくれました。グループに分かれての家庭訪問では、「日本の子

育て世代の生活費はどれくらい必要か」など生活に密着した質問も飛び出し、時間が足りないほどでした。

斜古丹墓地の墓参では、墓石の文字が風化するほど昔から、この地に住んでいたのが日本人であることがしっかりと刻まれています。

学校は、小・中・高の一貫校で11年制となっており、ゆったりとした空間の中で子どもたちは年代を超えて学んでいます。

最終学年終了後は、モスクワなどの大学や、専門知識を身につけるため島を離れる子どもたちもいて、「小さな島でも充実した教育が行われていることを、誇りに思っている」と校長は話してくれました。

現在色丹島に住むロシア人も、戦後故郷を離れなければならなかった元島民も、一緒になって穏

やかに交流を続けている現実をしっかりと受け止め



民族舞踊を披露してくれた5年生

たいと思う訪問となりました。

ビザなし交流(択捉島)に参加して

中村 忠士

5月27日から30日まで、択捉島の交流訪問に参加しました。

この訪問で、ロシアが日本、とりわけ北海道の間近にある国であることが改めて知らされました。

日ロの真の友好は、領土問題の解決なしには実現しません。どんな困難

があったとしても、必ず解決しなければなりません。

そのための一つの方策としてとられているのが、本交流事業ですが、言うまでもなく、このことのみでは解決しません。

政府の動きに頼っているだけでも解決しません。国民レベルの運動が大きくなればならぬというところも改めて考えさせられました。

1日目の夜、船中(えとぴりか号)で聞いた元島民の方の話が印象的でした。

国後島で小学2年の時終戦を迎えられたそうです。

ソビエト軍が突然島を占領。日本人と一般ソビエト人の混乱が続いたが、3年して突然島を追われた。との

話です。

ソビエトによる千島の占領は、国際法上絶対許されないことです。

理不尽で不当なソビエトのやり方を、その身体験された方の話は本当に重いものであります。

島でのロシア人の対応は、実に親切で温かいものでした。それだけに1日も早い領土問題解決のため、私自身も頑張り続けなければならないと思いつつ、帰ってきました。



島の墓地で慰霊碑に手を合わせる参加者

全国町村議会、 議長・副議長研修会

(5月30日～31日 東京)

域活性化が日本の元気を取り戻す」と伊藤聡子事業創造大客員教授の講演がありました。

今年の研修会は、全国から約1700人が参加し、「地方議会の役割と改革の行方」をテーマとして、江藤俊昭山梨学院大教授の講演がありました。

また、議会は二元代表制の元、執行者に対するチェック機能をもち、条例・予算・決算・主な計画承認など、住民自治にとって重要な議決権も与えられています。

その中で現在の議員定数および報酬、事務局職員の少なさの現状について問題提起されていました。

そのため常に改革の心構えが必要であるとの説明がありました。



昭和51年から毎年行われている研修会

その後、議会活動報告会があり、その中で議会活性化の一環として、全会議公開、住民意見交換会、学習会や自由討議政策サポーター制度などを実施し成果を挙げているとの報告がありました。

20日は地

その後、議会活動報告会があり、その中で議会活性化の一環として、全会議公開、住民意見交換会、学習会や自由討議政策サポーター制度などを実施し成果を挙げているとの報告がありました。

今回の研修会で得た事を議会を通して町民の皆様のご生活に還元できるよう努めたいと思います。

(佐藤初雄副議長)

平成28年 根室北部消防事務組合議会 第1回臨時会

議案第6号 平成28年度 更について

一般会計補正予算(第1号)

議案第10号 北海道町村

議案第7号 財産の取得

について(水槽付消防ポンプ自動車II型)

議会議員公務災害等組合規約の変更について

議案第8号 財産の取得

議案第11号 北海道市町

について(圧縮空気消

化装置搭載型消防ポンプ自動車)

の変更について

議案第9号 北海道市町

村総合事務組合規約の変

以上、全会一致で承認されました。

議会報告会

— 予 告 —

開催日

11月上旬 (予定)

開催場所

別海本町・尾岱沼・
西春別駅前 他

議会報告会に関するお問い合わせは、
別海町議会事務局
☎0153-75-2111 (内線4111)

酪農にかける夢

べつ かいちょうらく のう けんしゅう ぼくじょう お だ じゅん い ち ゆ み
別海町酪農研修牧場 研修生 小田潤一さん(36)・由美さん(36)



「本当に自分が納得できるモノを作りたいから新規就農を決意しました」
 そう話してくれたのは、昨年4月に横浜から移住し、研修を開始した小田潤一さん、由美さん夫妻です。(写真左上)
 それまで小売のプロとしてキャリアを積まれてきた潤一さんですが、お客様に心底お勧めできる商品を自分の手で作りたい、と強く感じるようになっていったそうです。
 小さい頃から北海道での生活にも憧れがあつて、北海道でモノ造りがしたいーよし、牛乳だーと、トントン拍子で話しが進んだようです。
 全くの初心者だったので、最初は牛の大きさに圧倒されてしまったという由美さんですが、今では牛たちをとても愛おしく大切に感じているといいます。
 潤一さんは、今は酪農の難しさや奥深さを実感しているとのこと、まずは自分たちにできる範囲でしっかりと営農し、地域の酪農家の皆さんを参考にしながら、徐々に自分が目指す酪農に近づけていけたらと語っていました。

編集後記

体力低下を防ぐには、若い頃から運動を習慣づけることが大切です。
 しかし、生活が便利になっているせいも、体を動かす機会が少なくなっています。
 運動は良薬にも勝り、ストレス解消にもなります。
 適度な運動でいきいき健康ライフを！
 (佐藤初雄委員)

以前、夏登山に行き、頂上から見渡す大自然の絶景に、人の営みの小ささを実感しました。
 先ごろ、首都の方で組織のトップという自らの立場を動揺いされた方もいましたが、どのような仕事においても、我が身はどこにあり、何を考え、どう行動するのか、常に適切な判断が必要ですね。
 (大内省吾委員)

飲んだら乗るな、乗らせるな、地域の力で飲酒運転撲滅を!!